



豊生会における 医療介護連携システムについて

豊生会医療介護連携システム

医療法人社団 豊生会

理事長 星野 豊
情報企画課 行方 克浩

1. 立ち上げの動機

本格的な超高齢化社会に向け地域包括ケアシステムの構築が進められている中、「住み慣れた地域で安心して住み続けられる」を実現するためには、医療と介護の連携は欠かせない命題です。当法人では、比較的早い時期から老人保健施設、高齢者向け住宅、特別養護老人ホームなどの介護施設および通所訪問系介護サービスや高齢者住宅なども情報共有や緊急時連絡体制を模索していました。平成24年度からは厚生労働省の「在宅医療連携推進事業（復興枠）」を受託し、事務局となって在宅医療推進のため「多職種連携合同会議」「市民講座」等を実施してきました。医療・介護を総合的に提供し、地域住民の安心した暮らしを支えるためには、医師をはじめとした医療・介護職員のシームレスな情報共有が欠かせない状況にありましたが、連携システム等ハード面での課題を抱えていました。この課題解決を目的として、平成27年3月に稼働を開始しました。

2. システム構成

クラウド型のサーバーを利用しています。東苗穂病院内に中継サーバーを設置して、院内システムとの情報連携を行っています。

3. セキュリティ

JIS Q 15001（個人情報保護マネジメントシステム）、プライバシーマーク、ISO/IEC27004を取得しているデータセンターを利用しています。データセンター内のサーバー室では、入退室管理や施錠、監視カメラによる24時間365日の監視が行われています。サーバーとの通信については、IPSec+IKEを利用したVPNを利用しています。

4. 情報共有の範囲

患者基本情報、処方オーダー情報、画像情報、受診歴・入退院情報、介護保険認定情報等を共有しています。

5. 費用と資金繰り

システム構築にあたって、医療介護総合確保基金（患者情報共有ネットワーク構築事業補助金）を活用させていただき、サーバー構築、ハード整備等の費用について1/2を補助していただきました。設備

更新時の資金繰りについては未定の状況です。

6. 規模・範囲

当初、東苗穂病院と老人保健施設を含む介護事業所等19施設、社会福祉法人2施設、有限会社（高齢者住宅事業）5施設と連携を行いました。その後、ソフトウェアの改修・機能改善を行いながら、システム運用を行っています。参加職種としては、医師、ケアマネジャー、介護福祉士となります。アクセス数は平成28年10～12月で、7,038件でした。

7. 評価

介護サービス利用者の状況を病院で把握できる、介護事業所間で情報を共有できるのは良い点でした。また、利用者単位に情報や書き込みが蓄積され、情報が整理しやすくなりました。一方で、システム自体のユーザビリティ向上が必要で、システムの操作・情報登録に非常に時間がかかり、想定よりも入力作業に要する時間が増加してしまいました。

8. 課題

システムの機能面としては、システムにログインしないと新着情報を確認できず、有益な情報を見逃してしまうことがあることが課題です。また、既存の基幹システムとの兼ね合いで、当システム維持のために多重入力が必要になることがあり、各施設での作業負荷が増加してしまうという状況も改善していく必要があると感じています。

9. 改善点

上記の課題をふまえ、システムの改善要望を行っています。今後は、病院からの情報提供の強化（文書等）を計画していく他、調剤薬局との連携も視野に入れていきたいと考えています。現状では、連携システムにより多くの情報を集め、利活用度を上げていくことが必要と感じています。将来的には患者や介護サービス利用者およびその家族との情報連携、都市部と地方をつなぐ地域間連携を模索していきたいと考えています。

10. 要望

ICTツールを活用することで、算定できる加算等を診療報酬・介護報酬ともに充実・拡充していただきたいと考えます。また、データ交換規約などの整備およびインターフェイスの標準化・一般化・低コスト化を進め、マルチベンダーでの医療・介護の情報共有が進むような施策を期待します。